

文化財観光施設を活用した歴史体験検討委員会（第1回）

- 議 事 録 -

日 時：令和元年5月31日（金）14時30分から16時00分

場 所：大洲市役所 2階大ホール

出席者：委 員 14名 （1名代理出席）

- その他
- ・松田副市長
 - ・谷川建設部長
 - ・都市整備課（久保、菊地）
 - ・キタ・マネジメント（兒玉、井上）
 - ・バリューマネジメント（池上）
 - ・観光まちづくり課（河野、窪田、村中、高橋、久世）

1 開 会

進行：河野

2 戦略会議会長（大洲市長）挨拶

お忙しい中、委員の皆様にはご参集いただき感謝いたします。また、平素から観光振興及び市政全般にご協力いただいている中、検討委員会の委員についても快く承認いただき重ねてお礼申し上げます。少子化や人口減少が進み、稼働年齢層が急速に萎んでいきます。東京一極集中が進行し、地方の厳しさは増しており、地域の活力をどう維持していくかということが課題となっています。地域資源を活かすためには、観光をひとつの産業としてどう作っていくかが大きな課題だと思っています。

昨年7月の豪雨災害の復興を第1義として取り組んでいます。しかし、復興が終るのを待っていると手遅れになることがあります。地域づくりは進めていくものとして考えています。その手段として文化財の魅力を最大限に活かすことが全国的にも検討されています。大洲市の最大の強みは、肱川を中心とした自然や歴史、文化であり、大洲城や臥龍山荘などの文化財の活用についてご意見いただきながら活用に向けた検討をしていきたいと思っています。趣旨等は後程説明させていただきますが、市にとっての宝をどう残していくか、忌憚のないご意見をお願いします。

・委員紹介

各委員の紹介が行われた。

3 趣旨説明について

事務局から資料P3・4及び参考資料により趣旨が説明された。

（説明：村中）

■質問

なし

・賛成多数の拍手により、趣旨について確認された。

4 会則（案）について

事務局から資料P 5～6により趣旨が説明された。

（説明：村中）

■質問

なし

・賛成多数の拍手により、原案のとおり決定された。

5 役員の選任について

（二宮市長）

私は、市観光まちづくり戦略会議会長、キタ・マネジメントの立場であるため、本会の会長は民間の方をお願いしたい。経済界を代表し、城戸猪喜夫会頭に会長を推薦させていただきたい。

・賛成全員（挙手）により会長として城戸猪喜夫 大洲商工会議所会頭が選任された。

（河野）

副会長は会長から指名となっている。

（城戸会長）

大洲歴文会副会長の今井要様をお願いをしたい。

・城戸猪喜夫会長の指名により、副会長として今井要 大洲歴文会副会長が選任された。

6 議 事

議事進行：城戸会長

●議案第1号 事業内容等について

事務局より実施方針・実施内容についてP 7～12及び参考資料により説明が行われた。

（説明：村中）

■質問

（菅野）

P 9に記載されている日本版DMOとはなにか。

(事務局：村中)

DMOとは「Destination Management Organization」の略で、「観光地域経営組織」と訳される。観光庁が国内の受入体制、宣伝体制を行う組織をしっかりと作っていった、観光地の魅力をどう上げていこうとしている。ディスティネーション（観光の目的地）などの観光地の経営組織は海外にたくさん事例がある。その日本版を作っていこうという動きであり、昨年大洲でも組成をしている。

(中野)

先日、産業建設委員会で気仙沼市のDMOを視察した。地域をブランド化し、地産地消を行うためにマーケティングのシステムを取り入れ、地域の繋がりから交流人口を増やそうとされている。観光を産業と捉え（需要を取り込み）、お金を地域内で循環していく仕組みであり、説明を受けた私たちも霧が晴れたような印象だった。

(武田)

ハワイなどオプションツアーを行っているが、それはDMO組織がしっかりしており、調整機能が働いているからである。交通・レストラン機能・泊まる機能を調整し、外貨を地元の事業体で吸収している。さらに、そこで終わらないように地域内に波及する仕組みで、外貨を得て、それを内部で循環する消費のスタイルも出来上がっている。日本でもツアーを受け付ける作業はしていた。しかし、それでは地域にお金が落ちない。官民連携で大洲市もそれを目指して動いている状況である。

(山内)

P 11に「観る大洲城から利用する大洲城」とあり、大洲城は市民の寄付で建てられた経緯があり、市民の理解を得ながら進める必要がある。市民の皆さんに説明をしていくべきではないか。この仕組みでやること自体は良いと思う。地域の理解と言う面で心配している。目指すところは良いと思う。

(事務局：河野)

町家の活用で地元説明に入っているところ。機会あるごとにご説明させていただきたい。

(事務局：村中)

検討委員会で方針が決まれば、正式に周知出来るようになる。趣旨をしっかりとお伝えし、ご理解をいただきたいと考えている。

(押田)

この事業は10～20年後の将来を見据えたものだと考える。将来このままだといろいろなものが持続出来なくなることを想定して取り組んでいるもの。何もしないと他地域との差が大きくなる。また、事業を通していろんな人が入り、自然と周りもやる気が出てくる。そうなる、いろんな夢が出てくる。この機会でないとは出来ず、今がチャンスの時節だと思っている。もちろん復興を全力で取り組むが、ここで新しい種を蒔き、将来収穫出来るようにした方が良い。ぜひともこの流れをものにしていきたい。

市議会はチェック機能であるが、議員にも慎重な意見もある。理解を得ながら進めていきたい。

ターゲットは、訪日外国人旅行者が主と思われるが、流れを見ながら地元の方や愛媛、

四国の方などいろんな方が使えるようにしていただきたい。また、同時に若い人に魅力があるようにしていただきたい。

(事務局：村中)

ターゲット戦略をどう同提供できるか、どういった方々に刺さるかを考えるかが必要である。それは民間事業者が得意であり、詳しい内容は後で紹介するが、出来るだけ多くの方に楽しんでいただけるように、今いただいたご意見を反映していきたい。

(他力野)

本事業の内容において、大きく3つ留意している。

一つ目としては、9時から5時の今までの公開は守る。守ったうえで、さらに開かれた大洲城を目指す。

二つ目は、外国人の中でも文化とか歴史について感度の高い方に来ていただきたい。ここでつながってきた文化を感じられる人をターゲットとし、それが情報発信にもつながると思う。大洲城を体験していただき、その人を通じて外へと発信する。その影響力のある人がまずは重要なターゲットである。

三つ目は、城主体験だけでなく、大洲城周辺に来ていただくようなイベント性のあるものを目指す。地元のお店にも楽しんで来ていただけるような企画は必要と思っている。今の大洲城は観るだけとなっており、歴史好きが中心になっている。城主体験以外のコンテンツはこれから検討していく。

事務局から別添資料「提案書」により趣旨が説明された。

(説明：村中)

バリューマネジメントから別添資料に基づき、会社概要及び事業展開提案骨子について説明がなされた。

(説明：他力野)

(他力野)

観光客は普段得ている生活レベルは下げられない。同じ水準のサービスを受けて、さらに大洲の良さが手に入る体験としたい。

目的として、ひとつは町並の保全を行うこと。次に着地型観光地では泊まらないところが多い。大洲は泊まれる場所という認識を促進する。さらに、南予地域の知名度を向上する。地域では若年層の雇用を促進させる。I・Uターンも含み、働く人が憧れる場所としたい。それが人口増につながり、その影響で他の事業者が入って来る可能性がある。この体験の取組みが、循環の突破口のきっかけづくりとしたい。

■質問

(城戸輝)

体験の金額は幾らくらいになるのか。

(他力野)

まだ細かい試算はしていない、文化財保全のためのお金を貯めていく仕組みを検討している。少なくとも100万ぐらいはいただきたい。今は年30日を想定しているが、回数を増やすことによって、収支は改善する見込み。

(菅野)

そのレベルのお客を満足させるには、かなりの接客レベルが必要では。その人員や組織はどうするか。

(他力野)

私どもは文化財を運用している中で、ビリオネアのお客様もお迎えし、接客している。そのようなお客は特殊であるが、平安神宮などを運営する中でそのレベルのお客を抱えている。また、海外からの視察も多く、その度接客を試されているが、満足して頂けていると考えている。話題とクオリティ、言語が求められるが、その中でも食文化が重要である。私どもの総料理長はスイス大使館で働いており、ハイエンドな調理がもともと得意である。十数施設を運営しており、450名の正社員（パート・アルバイトを含めると900人）を抱えている。施設運営ではプロとしてやっており、マーケティング、広報などチームを細分化している。

昨年7千人のインターンの応募があり、実際に受け入れたのは2千人。その中から採用は数十名を選ぶようになっている状況である。また、最近の若い人は志が高い。文化保全やまちづくりをやりたい若者が多くなっている。しかし、活躍できる場所が少ない。そのような人は増えている。やる気と根性のある若手が揃っている。地方出身の方が多く、地域に貢献したいという志を持っている。

(城戸会長)

それでは、本案を原案のとおり決定し、実施方針等に基づき、本会で検討を加えながら実施していくこととしてよろしいか。

・議案第1号について賛成全員（挙手）により原案のとおり決定された。

●議案第2号 実証実験について

事務局より実証実験についてP13により説明が行われた。

(説明：村中)

■質問

なし

・議案第2号について賛成全員（挙手）により原案のとおり決定された。

7 その他

今後のスケジュールについて事務局より説明があり、委員により確認された。

■質問

(武田)

せっかくの機会なので、バリューマネジメントに聞いておきたい。可能性として、確認したいのだが、今後のサービスを計画していく中で地元の食材は使用できるか。オーガニックが前提となるか。天然醸造の醤油はある。将来需要が増えるのであれば、事前に準備をする必要がある。天然の麻で服を仕立てて販売している事業者もいる。アッパーミドルではないため、するなら特別な仕立てが必要である。

(他力野)

むしろ積極的に利用していきたい。泊まりに来て、得たものは大洲のものが良い。それが外に発信される流れを作りたい。積極的に使用する。

ただ、年30日では需要に限られる。活用する側としてはありがたいが、生産者等にとっては需要がないのでリスクとなる。それがPR（キャッスルステイで使用された品としてのブランドなど）であるなら良いと思う。城下町の高級宿も初年度は10室程度であり、消費パワーはあまりない。

(武田)

基本的に皆さん、生計は成り立っている。そのプラスワンとして、マーケットが開かれるなら未来への投資となるのでは。ぜひ紹介したい。実証を通してつなげていきたい。

8 閉 会

進行：河野

以上